

有限会社 無限樹

むげんじゅ

■「和」を大切に、笑顔で「ごちそうさま」と言われる農産物づくりを目指して



〈法人の概要〉

所在地:〒078-3638 苫前町字三溪 87 番地
代表者:代表取締役 大川博文
構成員:7名(構成農家5戸)
役員:2名 常時雇用者4名
設立年月:平成8年1月 資本金:4,980万円
事業内容:水稲/農作業受託、観光農園、直売所
水稲65ha、畑作・野菜等130ha(H22年)
経営面積:195ha
売上高:2億3,000万円(H21年) 交付金も含む
電話:0164-65-3783 FAX:0164-65-4634
E-mail:mugenzyu@r3.dion.ne.jp

〈法人のあゆみ〉

- | | |
|--------|--|
| 平成8年 | 有限会社無限樹を設立 |
| 9年 | 事務所を建設、農作業受託を開始 |
| 10年 | 納庫、作業所建設、水稲育苗70haを一本化 |
| 11~15年 | 農地整備、農機具の大型化への整備 |
| 14年 | 野菜等育苗施設、農産物貯蔵施設、新規就農施設を整備 |
| 15~16年 | 直売本格化、北海道開発公社の出資育成事業を活用 |
| 16年 | 北海道産業貢献賞 受賞 |
| 17年 | 観光農園開始 |
| 18年 | ほとんどの農産物を独自販売、苫前町内の国道沿いに直売所オープン
第2回HAL農業賞神内大賞 受賞
土地改良事業地区営農推進優良事例表彰 農林水産大臣賞 受賞 |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・苫前町三溪地区では、離農の進行、高齢化による担い手不足から地域農業の維持が課題であった。
- ・農地の団地化や農作業の共同化のメリットを生かす必要があることから、現代表の呼びかけで、平成7年から三溪地区内で企業としての農業経営の検討が始まり、平成8年に三溪地区の農家12戸により設立した。
- ・労働時間や社会保険などを整備することで法人の人材を確保し、地域の農地維持を図る必要があった。
- ・設立にあたっては、3Y(夢・余裕・安らぎ)・3A(安価・安全・安定)・3J(自主・自立・自由)の確立、米1俵1万円でも成り立つ経営を目指した。
- ・「農業のサラリーマン化」を検討した結果、勤務時間を次のように整備。
勤務時間:午前7時30分から午後5時30分まで(休憩2時間)、休日:原則、日曜(年間で週休2日相当)
- ・検討から設立までには6ヵ月程度の期間を費やし、地域にどのような役割を果たしていくかを検討。設立の手順や出資構成については主に北海道農業会議に相談した。
- ・出資者については、これから地域を担っていく若い世代と考え、現代表より年上の人は出資させなかった。
- ・設立後は、農地整備、施設の整備、農機具の大型化への整備などを進めるとともに、農作業受託や直販、観光農園などの事業展開に取り組んでいる。また、平成18年には、苫前町の国道沿いに直売所をオープンさせた。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・赤字が出た場合は単年度で埋めるという経営努力を
実践している。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・従業員の労務管理などが難しい。
- ・人それぞれ、見方や感じ方が違うので、みんなが見
たり聞いたりすることが大事との現代表の考えから、
各種研修には全員で参加している。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・会社の従業員とその家族がきちんと生活していけること。会社経営には、その責任があると意識を持つこと。
- ・従業員1人1人が会社の一員として、会社があつての自分という責任を持つことが大事。
- ・将来に向けての土台(法人経営)をしっかりさせることと、荷物(負債)は残さないこと。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・なるべく行政や金融機関に頼らない自立した経営を目指すべき。
- ・行政や農協に使われるのではなく、うまく使う経営を目指した方がよい。
- ・農家自らが行政の指導を受け入れ、また考える姿勢がなければ、いくら行政が法人化を進めても、
強い法人は出来ない。農家の意欲が重要。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・環境に配慮し、殺菌・殺虫剤・化学肥料の使用を最
低限に抑えた栽培方法で土作りから作物を作る取組
を実践。
(YES! cleanまたは特別栽培を基本としている)
- ・米は都市部のデパートや居酒屋、回転寿司チェー
ン、ホームセンターなどとの直接取引を基本としてい
る。
- ・健康志向の消費者向けにミニトマトを使ったトマトジ
ュースを作っている。ただし、加工はプロに任せると
の考えから、加工会社に委託している。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・10年、100年経っても続いていく経営をしていき
たい。
- ・安全・安心は当たり前。最後には“うまい”というこ
と
が大事。
- ・「いただきます」という言葉は当たり前のように誰でも
言うが、美味しくないと、笑顔で「ごちそうさま」とは言
わない。「ごちそうさま」と笑顔で言ってもらえるよう
な
ものをつくっていきたい。

〈視察等の受入〉

有料。詳細については要相談。農家の視察は夫婦で来てほしい。
連絡先:0164-65-3783 (担当:代表取締役 大川博文)